

五つの夢に向かって、新たな出発 たびだち

コロナ禍で、経験する事が出来ない事も多かった中学校生活。しかし、悔しいからと投げ出さず、できることを精いっぱいやって楽しんだ中学校生活。3月にはそんな中学校を卒業される吾郷地域の5人の3年生に、それぞれの心の中に残る思い出を寄稿していただきました。

大田第一中学校3年 中村 心緑さん

私の三年間の中学校生活では、特に部活動に力を入れました。部活動を通し努力する大切さがよく分かりました。どんなに厳しい練習でも、自分の目指す目標を意識し努力することで、できないことができるようになってたり、気持ちも強くなりました。何より楽しさと喜びを感じることができ、その環境に感謝したいと思います。

大田第一中学校3年 山下 夏穂さん

私は、大田一中で3年間過ごしました。人数の多さに初めは驚いたけど、日々過ごしていくうちに、人数の多さにも慣れ、とても大切な友達もできました。

コロナの影響で制限もたくさんあったり、休校になったりしたけど、友達のおかげで毎日明るく、楽しく笑いが絶えない日々が送れて、とても良かったです。

邑智中学校3年 熊谷 紫音さん

中学校生活で一番楽しかった思い出は、部活と行事です。

私はバレー部に入部しました。楽しいことが多くて、たくさんの経験をすることができました。部活の中では、自分の代のときに郡優勝でき、県総体に行けたことが一番の思い出でした。

行事の思い出は、体育祭や文化祭、修学旅行といった3年生の中では、すごく楽しく過ごせました。

小・中学校での長い付き合いの友達と離れるのは少しさみしいけど、勉強、部活の両立をしっかりがんばりたいです。高校でも、バレー部に入り、良い結果を出し、春高に行けるように努力したいです。

邑智中学校3年 保名 彩果さん

中学校生活の中で一番楽しかった思い出は、部活と休み時間でした。

私は野球部に入部していました。冬トレが一番キツくてとても嫌でした。だけど試合はとても楽しかったです。

休み時間は、友達とたわいもない話をして盛り上がるのが楽しかったです。

大変なこともたくさんあったけど、なんだかんだ楽しかったという気持ちが大きかったです。

高校でも野球をするのでがんばりたいです。

邑智中学校3年 松谷 和環さん

僕が三年間で一番の思い出は、修学旅行の一日目のシーカヤックです。今回、初めてシーカヤックをやったんですが、やる前は学校行事でやるか又一教室と同じ感じかなと思いましたが、川と海だと全然違って、海は波とかですごくゆれるし、海が透きとおっていてとてもキレイでした。洞窟の中にも入ったんですが、言葉では表せないほど迫力のある空間でした。

もう中学校生活は終わってしまいましたが、残りの中学校での時間を大切にしたいと思います。



卒業 おめでとう ございます

川面に浮かぶ不思議な模様 珍風景



1月最終の日曜日、乙原にお住まいの方から情報を頂き、江の川の水面を撮影しました。

みなさんは、この写真の模様、何だかお分かりでしょうか？実はこれ数千羽（目視）にも及ぶ「トモエがも」。

どうやら年明けから、乙原沖の辺りで羽根を休めている様です。これだけ群れるとさすがに圧巻です。スマホのカメラしか持ち合わせていないため、雰囲気しかお伝え出来ないのが残念ですが…。

情報提供ありがとうございました。

「トモエがも」…カモ目カモ科の鳥。シベリア東部からカムチャツカ半島に繁殖し、中国東部、日本に越冬するアジア特産の小形種で、コガモよりやや大きい。その渡来は不規則で、ときに大群でくるが、近年は減少が著しい。全長約40センチメートル。雄の顔部は、黄と緑が黒と白の線でもえ状に区別されていて、名の由来となっている。雌は嘴（くちばし）に接して小白円斑（はん）があるのが特徴である。雄の声は、ペロペロというように聞こえる。

出典 小学館 日本大百科全書（ニッポニカ）日本大百科全書（ニッポニカ）について



吾郷地域連合自治会からのお知らせ

3月第一日曜日に開催を予定しておりました

吾郷地域文化祭はコロナウイルス感染症

拡大防止のため、**中止**と致します。

大変残念ではありますが、

ご理解のほど何卒よろしくお願い致します。

放課後児童クラブ 吾郷で道場

芽衣子の日記 Vol.9

文・引地芽衣子



コロナも逃げ出す位に元気（過ぎる位）な吾郷で道場です！

1月中旬には、急な休校となり、吾郷地域と浜原地域の子も達が吾郷で道場を利用しました。

普段は一緒に過ごさない友だちがいると、いつもとは違う遊びなども生み出され…

朝から夕までハイテンションつつ、止まっている瞬間、ほぼ無しです！笑

学校が再開してからは、多少の疲れも見えましたが、現在は体操や柔軟やヨガが流行中。

当たり前の事ながら、柔軟性や運動神経には差があるもので、ついついできない自分を卑下しがちになる場面もあつたりします…

しかし！できる、できない、にこだわるよりも、楽しい方がいいに決まってるし、誰かと比べんでも、自分のペースでいいがぁ～

とは思いつつも、「比べない」ってなかなか難しいものですね…

そんな吾郷で道場の最近の合い言葉は

「柔軟に近道無し！」

40代もひい～ひい～言いながら、毎日柔軟に励んでおります。

令和4年3月の予定（公民館・連合自治会）

- 4日（金） 歴史探訪講演会 13：30～
- 11日（金） ニコニコ健康教室 9：30～
- 18日（金） ニコニコ健康教室 9：30～

令和4年1月末現在

吾郷地域（8自治会）世帯数と人口
世帯数 229（先月－1）

514人（男性 259・女性 255）（先月－1）



吾郷地域座談会 「～地域の獣害対策から～ 地域づくりは住民が主役」

吾郷公民館では、住民同志で語り合う座談会を企画し、今回は7名のみなさんにお集りいただき開催しました。

座談会をたよりに掲載する目的は、もっと吾郷地域の良さを住民のみなさんに知っていただきたい、様々な活動を紹介したり、地域について語り合っていただいて、吾郷地域がより元気になれるきっかけにしたいと思っています。

初回は、婦人会など獣害対策の活動に携わっておられる方々で、「～地域の獣害対策から～ 地域づくりは住民が主役」について、自由に話し合っていました。座談会の一部を抜粋し、紙面にてご紹介します。

出席者は、安田兼子さん、塩田美津子さん、今馳幸子さん、中林洋子さん、牛尾博文さん、雅ねえ（井上雅央さん）、安田亮さん、竹田勇（公民館）です。

雅ねえ

「そもそも論になるんやけど、きっかけのところで住民力というところで、確かにそうなんやけど、じゃ、なんで私が今ここにおんねんということなんやけど…」

牛尾

「確かに、そりゃ不思議ですよね」

雅ねえ

「なにかと言ったら、奈良県にいる時に獣害やられて言われたんよ。それでやりはじめたら全国画一的に補助金もらって駆除したり、柵建てたりしてみな失敗していた。ところが補助金もなしで山奥で、こんなとこ猪ボコボコ掘ってんのに、やることやったら被害防げるよっていう人もいっぱいいたのよ。その人たちはしっかり山を見て、自分とこのたんぼに来させんためにはどないしたらええんかな言うことを考えてる人。自分でやる気のある人はだんだん守れるようになっていく。失敗を経験にして。奈良県ではとにかく自分たちで守ろうとやりだした。ところが国の会議に出席したら、みんなはそうじゃなかった。県内全体で何匹いるの、誰が駆除するの、いやそれは行政でしょということで、それが施策になって補助金がついていた。そうして実際効き目のないことが多かった。こんなことではだめだと思っているところに安田亮が来たのよ。奈良県へ。あっ、この人役場の職員やのに、住民主役で物事考えてるわと、こういう職員がいるとこなら島根に行ってもええなあと思ったのがきっかけやった。彼がいるとこなら自分の考えが実現できるんちゃうかなと思えた。職場は行政だけど、自分は一住民でもある。だから地域が元気になるために、役場はどんなことしたらええかと常に考えながら事の結論を出しているんやろなと思う。現実に来れる事と出来ない事を、人材見ながら進めていくという考え方と自分の波長がすごく合った。まず人ありきという考え方にすごい共感を得た。多分彼は、

こんなすごい人材がいるのに、なんとかならないかと吾郷の婦人会を見てたんちゃうかなあ」

牛尾

「それが何年くらいですかね？」

安田兼子

「平成17年」

雅ねえ

2006年から2007年にかけて、亮ちゃんに言われて、吾郷とか栗原の畑や堤防の下とかで講習会をやった。青空サロンはまだ出来てないとき」

安田兼子

「そうそう、やったなあー」

雅ねえ

「雪が降って高く取られへんところにある柿を、取れる高さにするようにしたり。そのとき思ったんが、やれると思ったらみんなやってくれるんや。講習の最中、雪が降りだしても、せっかくだから覚えて帰って、自分とこもやらないかんねんいうて、みんな熱心やったなあ。やっぱり自分でやるのが根本やなど強く思った。そういう仕掛けを次から次へと講師料もなしで組んできよる（笑）。まだもろてへん（笑）。でもすごく居心地が良かった。感謝もしてくれたしな。こんな熱心に講習受けてくれるんやったら、いつでも出来る畑が欲しいねといったら、亮ちゃんがすぐに動いてくれてサロン畑が出来、それを売る市場が出来た。このことはいくら本に書いても放送しても、やったもんでないと伝わへんことや。それが伝わったところとは今交流ができて、大磯町やタイガーさんなども繋がっている。」

竹田

「それをやっていく中で、どこか周りからの反応が違うと実感した時期があったんでしょ」

塩田

「岡山の農政局の人が来ちゃったよね。3人くらいで。そうしたらね、退職したらまたこへ個人的に来たい言って帰っちゃたよね。そしてほんとに個人的に来られた。なんかね、私たちは感じてないことでも、なにか感じられたのかなと思う。伝わったんかなあ」

竹田

「そのことでいうと、実際やってこられて、中林さんはなんか注目されて来てるなと感じられたことは？」

中林

「いやあー、感じとるとかどうとかではなくて、やっぱり身につまされるのは獣害対策だったけど、その前は孫の世話に追われていて、参加したくてもなかなか出来なかった。でもね孫を連れて、吾郷の集会所であった婦人会文化祭のなかでの井上先生の講演会を初めて聞きました。そしてやっ



ぱりぐっと胸に刺さりましたねえ、良いこと言われるわあと。思って。ずーんと」

安田兼子

「ももとは彼（安田亮）が、どういう思いで私らに話を持ち掛けたか、あんたちちょっと住民として話しんさい」

安田亮

「いやあ、ボクは今日は傍観者だけえ（笑）」

牛尾

「自分もほんと知らなくて井上さんの事を。いや、祭りで乙原には来てますけどね（笑）。知人から、乙原に月に何回か県外からいっぱい視察が来るらしいでと。ただ自分はその様子を全く知らなかったですし、事務所らしいものもないし、構えも見えないしね。ただ色々話を聞いていくうちに、なに！農林水産大臣賞とってる？えっ、なにやあーみたいな（笑）。だってすごいことですからね」

安田兼子

「私も当時自治会などでの話の中で、高齢化だとか少子化だとか嫌な話が多かった。でも自分の中ではこんなことではいけんという思いがあった。そんなタイミングで持ち掛けられた話が、彼からいい先生がいるから獣害対策をみんなで行おうということだった。彼が山くじら生産者組合を立ち上げる時の苦労も聞いていたし。ただ当時はそう言われても、獣害対策は男の人のやることと思う部分があったけどね。ただ何かのきっかけにはなるかもしれんと思った。そこで彼に婦人会に向けて話をしてみってくれと頼んでやってみました。そして彼の地域を思う熱意が何かしら伝わったんでしょうね。みんな、それならやらして貰おうということになったんです。それが17年の初めごろかな。そのあと吾郷集会所で先生の講演会を開いたら八十何人が集まって、男の人も37、8人くらいおられた。話の内容は百歳まで楽しんで畑をするというような事でした。そのあと、男性陣から今日の話はええ話だったけえ、わしらこの先生について勉強がしたいということ聞いて驚きました。そして安田君に話をして動き出した次第です」

安田亮

「当時、川本の役場におられた課長のKさんや、もちろん井上先生も同じことを言っておられたけど、地域づくりは女性だと聞かされていた。それがずーっと自分の頭にありました。それに失礼だけど、婦人会の活動って1年単位で同じことの繰り返しが多く、もったいないなと感じていた。このパワーをなんとか一緒になって活かせないかなと」

安田兼子

「色々学んでいく中で、猿を追うにしても、自分さえ良けりゃいいではなく連携プレーが大切ということ。青空サロン市場にしても、みんなの意見でやることなのでやってみて、だめならやめりゃいいくらいの楽な気持ちで始めた。とりあえず3年と思ってやり始めたら、だんだん県外から視察に多く来られるようになってきた。そうやって続けてきて今年ではあ14年になるかいね。吾郷地域の婦人会で言えば、やっぱり一体感があってクラフトなんか楽しんでできてるんよ。以前、商工会から一緒にやりましょとお誘いも受けたけど、いやあーこれは楽しいから、金にならんでも楽しいから、みんなで寄ってやってるんだからと断りました。やっぱり、足が動く間、口が立つ間は出て行ってやりたいとみんな思ってると思う。今後は地域内の壁を作らず、置いてけぼりを作らないような、若い人も入れた婦人会を作っていかんといけんと思う。でも今思うと、この活動については雅ねえとこのことにしても安田君からの話にしても全てのタイミングがとても良かった」

塩田

「始めのころは、高架下で今日は視察が来てるから言うて、3人くらいで吹雪の中、まだ来られん、早う来てーや、もういい加減来てよ言うて待ったこともあったよね（笑）。こられて「こりゃ何の木ですか」言うて聞かれても「さあわかりません。勉強しときます。」そのころまだ私はなにも分からなかったのだから「こりゃ何というミカンかね？」って聞かれても「さあわかりません。今度までに勉強しときます。」言うて護摩化しとった（笑）。最初はそんな感じでした」

思い出話に花が咲いたり、大笑いしたり、熱く語ったりと楽しい座談会でした。こうした自分の意見を言ったり、他人の意見を聞いたりする場は、地域づくり・地域交流に於いて、とても大切なことだと感じています。今回ご協力いただいた7名の皆様、ありがとうございました。

不定期ではありますが、テーマを変え、世代を変え、気楽に、自分たちの住む地域について話し合える座談会を、今後も開催したいと考えています。

皆様のご協力を宜しくお願い致します。